

こんにちは、モニカ・ガルシアです。ロサンゼルス統一学区では、**変革の時**を迎えています。私たちは共に学校を築き上げてきました。70億ドルにのぼる公債資金も可決され、大幅な教育改革が開始されました。

しかし、**当学区が多くの生徒を支援できずにいるのも事実です**。中退率は非常に高く、卒業率も理想からは程遠い状態です。**私たちの教室には危機が訪れており、現状を改善するのは私たちの任務です**。

このような状態に陥った理由は何でしょうか。多くの人が原因は資金不足にあると指摘しますが、それは間違いではありません。私が生まれてから現在の間、カリフォルニア州の教育支出額は**国内7位から47位**に転落しました。今年一年を取ってみても、ロサンゼルス統一学区は約10億ドルの資金削減に直面しています。

しかし、問題は資金不足だけではありません。現存の資金がいかに関運用されているかに関して、ロサンゼルス統一学区の説明責任を問わなくてはなりません。

私たちの学校では、すべての子供が卒業して大学に進学すべきだという期待する傾向がありますが、そのような高い期待を掲げるのであれば、それを実現するためのツールを生徒に提供しなくてはなりません。カウンセリング、個人指導、夏期講習、大学フェアなどが必要ですし、最も重要なのは、徹底的な大学進学準備カリキュラムでしょう。

高い目標を掲げるのなら、その実現に必要な柔軟な環境を教師や学校管理者に与えなくてはなりません。学校自体が教育や予算の管理に携わり、現場の職員が資金をどう使うかを決定できるような環境を作るべきです。

各生徒のニーズに対応することも大切です。画一的なプログラムではそのようなニーズに応えることはできません。中退瀬戸際の生徒を支援して、卒業できるように指導するべきです。また、英語を母国語としない生徒たちにも最大限のサポートが必要です。

たとえこうしたツールがあっても、学校が大きすぎても成功は困難です。ロサンゼルス統一学区の学校はどれも**大きすぎ**ます。当学区ではすでに学校のサイズを小さくする動きが始まっており、教師と生徒、そして保護者との間のコミュニケーションを改善する努力がなされています。私たちの世代で、教育システムを変えることは可能です。**皆が協力すれば、卒業率を100%に引き上げることもできるはず**です。今こそ、ロサンゼルス統一学区をアメリカにおける都市部教育改革の先駆者にするチャンスなのです。私は、第2地区のロサンゼルス統一学区評議員に再選することを目指して立候補しました。皆さまのご支援に感謝しております。